



「裏切り者でなかった穴山梅雪の真実」

講師 歴史小説家 江宮隆之氏

◆ 日時 令和3年 **10月3日(日)**

13:30～(受付13:00～)

◆ 会場 身延町総合文化会館大ホール
(山梨県南巨摩郡身延町波木井407)

◆ 参加費 無料

◆ 定員 100名

◆ 申込方法

9月13日(月)より下記事務局へ電話で
お申し込みください。

身延町教育委員会生涯学習課
文化財担当 TEL 0556-20-3017
(受付は平日8:30～17:15)

※ご来館時はマスク着用・検温など新型コロナウイルス感染症拡大
予防対策にご協力をお願いします。また、感染拡大状況により内容
の変更等がある場合は、身延町ホームページにて周知します。

「武田二十四将図」のうち穴山入道梅雪信君画像
幕末から明治期の日本画家 松本楓湖の作 (甲州市塩山 信玄公宝物館所蔵)

◆◆◆◆◆ 講師からのメッセージ ◆◆◆◆◆

2021年は、武田信玄生誕500年という節目に当たります。こうした節目の年こそ、長い時間「武田家を裏切った不忠臣」とされてきた穴山信君(梅雪斎不白)と小山田信茂の名譽を挽回する時ではないでしょうか。既に、小山田氏の山城・岩殿山のあった大月市では「小山田信茂の名譽回復」に取り組んでいます。もしも小山田氏の名譽回復だけが先走ってしまったら、穴山氏は永遠に「裏切り者」「敵役」といった立場のまま将来までその「悪名」を遺し続けます。これは、地域の歴史・文化、住民にとっての誇りを失わせ、観光・産業への悪影響も考えられます(せっかく中部横断自動車道が全通し、リニアが通過する地域なのに、地域の誇りが失われたままになる可能性もあります)。そこで、身延町・下山地域が中心になって「穴山氏・梅雪」の名譽回復に取り組むべきです。その際には、身延町のみならず、隣接する南部町、早川町、さらには富士川町や市川三郷町など峡南地域(戦国時代には河内領といわれた地域です)を巻き込んでのプロジェクトあるいは運動にしていってはどうでしょうか。そうしたことを意識・意図して、歴史講演「裏切り者ではなかった穴山梅雪の真実」を企画しました。

実は穴山氏は、甲斐源氏武田氏と同様の血筋にある戦国時代の大きな勢力の一つでした。しかも隣国の駿河・今川氏との交渉・守備という武田家にとって大役を担う重要な存在であり、武田家の御一門衆の重鎮でもありました。従って、信虎・信玄の二代にわたる婚姻政策で太い絆を持ち続けた名家でした。ある意味では、諏訪(武田)勝頼以上に、甲斐源氏意識も強く、武田のDNA意識も強い一族です。

天正十年(1582)三月に勝頼主従が天目山・田野で自刃して「武田家滅亡」になった訳ではありません。穴山氏が残ったことで、その後も武田家は継続します。本当に(名目的であったとしても)武田家が消滅するのは、慶長八年(1603)九月のことです。つまり関ヶ原合戦後に徳川家康の天下になってから8年間も「武田家」という家名は続きました。それも、ひとえに穴山信君(梅雪)がいたからこそであり、穴山家の存在の大きさは、現在私たちが考える以上のものであったということです。そうした話をしたいと思います。



江宮隆之氏プロフィール

1948年山梨県増穂町(現富士川町)生まれ。中央大学法学部卒、山梨日日新聞入社。文化部長、東京支社長、論説委員長を歴任して退社、フリーに。『経清記』で歴史文学賞、『白磁の人』で中村星湖賞受賞。2012年『道～白磁の人』として映画化。戦国時代の造詣に深く、とくに甲斐武田氏に関する作品、歴史書を多く著している。

この講演会は「身延町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一環で地域の歴史や文化を知り、郷土に誇りを持っていただくことを目的に実施します。